

(臨床研究に関する公開情報)

岡山医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

小児急性虫垂炎における虫垂内容と便の培養に関する検討

[研究責任者]

小児外科 向井 亘

[研究の背景と目的について]

小児急性虫垂炎は当院でもしばしば治療を行っており、虫垂の壁が破綻（穿孔）をおこしていなければその治療は主に腹腔鏡下手術により数日の経過で退院可能となる良性の疾患です。

一方で、穿孔により腹腔内に膿の塊（膿瘍）を形成したり、諸事情により手術を回避せざるを得ない場合は、手術以外の保存的治療として抗生剤投与を行うこととなります。虫垂炎の保存的治療を行う場合、手術と異なり切除した虫垂からの細菌培養検査が行えないため、膿瘍を穿刺して膿汁を採取などを行った場合以外は炎症を起こしている原因となる菌（起炎菌）に対して抗生剤の感受性に関する情報がないため、保存的治療に対する反応不良例で投与薬剤の変更が必要な場合の薬剤選択の判断に迷うことがあります。

本研究は当院で小児急性虫垂炎の診断、治療を受けた患者さんたちから切除された虫垂内容の培養検査を行い、また肛門からの便培養検査も併せて行って検出された細菌叢や抗生剤の感受性を比較し、保存的治療を行う急性虫垂炎の治療に対して、便培養の結果が抗生剤の選択に有用な情報となりうるかを目的として検討を行います。いずれの試料・検査結果ともに手術の際に採取を終えており、非侵襲簡便な検査であり、患者さんへの新たな負担を与える必要のない安全な研究です。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2017年8月1日から西暦2022年12月31日の間に当院小児外科で急性虫垂炎として腹腔鏡下虫垂切除術を受けられた患者さん

●研究期間

西暦2023年2月18日から西暦2024年03月31日

●利用する検体、カルテ情報

当院のカルテより診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、手術により採取した虫垂内容、腹水の培養検査並びに経肛門的に採取した便培養）

●検体や情報の管理

検体や情報は、当院のみで利用します。

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

検体や情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。検体や情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[問い合わせ先]

国立病院機構岡山医療センター

小児外科 向井 亘

電話 086-294-9911